

株主通信

平成23年4月1日～平成24年3月31日

第119期



Reform & Enhancement (事業構造の改革と強化)

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、株式会社トプコンおよびトプコングループの平成23年4月1日から平成24年3月31日に至る第119期事業年度の営業の概況をご報告申し上げます。

当期における経済環境は、米国では景気は緩やかな回復基調で推移しておりますが、欧州では財政不安を抱え厳しい状況となっております。中国等の新興国群では、各国で状況は異なるものの景気の拡大基調に陰りが見え始めております。

一方、日本においては、東日本大震災からの経済活動の復興が始まっており、欧州経済の減速や円高の進行等の不安要素がありますが、景気は概ね回復基調で推移しております。

当社グループは、「現在の変動期を飛躍の好機と捉え、グループ総合力を結集し、『利益ある持続的成長』に向け再チャレンジする」ことを目標に掲げ、「Reform & Enhancement」(事業構造の改革と強化)を旗印に、安定した収益基盤および健全な財務体質を早期に確立し、外部環境に左右されないより強固な企業体質に変革すべく取り組んでまいりました。

また、昨今の円高の進行や世界経済の先行き不透明感の増大等、更なる事業環境の悪化が懸念される状況にあり、より一層の収益力の強化と財務体質の改善を図ることが不可欠と判断し、ファインテックビジネスの大幅な事業縮小や希望退職者の募集を実施いたしました。



こうした中で、当期の連結業績は、次のようになりました。売上高は、前期と比べると、円高の影響を受けながらも、ポジショニングビジネスが米国および日本を中心に、アイケアビジネスが欧州を中心に、好調に推移いたしました。一方で、ファインテックビジネスが市況の低迷や事業縮小の影響等により悪化したことから、売上高は988億3千4百万円となり、前期と比べ△3.5%の減少となりました。

利益面では、売上高の減少がありましたものの、全社的に取り組んでいる事業構造改革による固定費の削減および原価低減の効果等により、営業利益は20億8千万円(前期と比べ2億8千万円の増加)となり、経常利益は4億6千7百万円(前期と比べ△1億4千1百万円の減少)となりました。当期純利益は、ファインテックビジネスの事業縮小に伴う損失や希望退職者の募集に伴う損失等を特別損失に計上したこと等により、△36億8千6百万円(前期と比べ△23億9千7百万円の減少)の損失となりました。

当期の剰余金の配当につきましては、ファインテックビジネスの事業縮小等による特別損失の計上により、連結当期純損失とはなりましたが、安定した配当の維持を重視し、中間配当を1株当たり2円(前期中間配当2円)実施いたしましたのに加え、期末配当においても1株当たり2円(前期期末配当2円)とし、合わせて年間4円(前期配当4円)の配当とさせていただきますので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともご理解、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

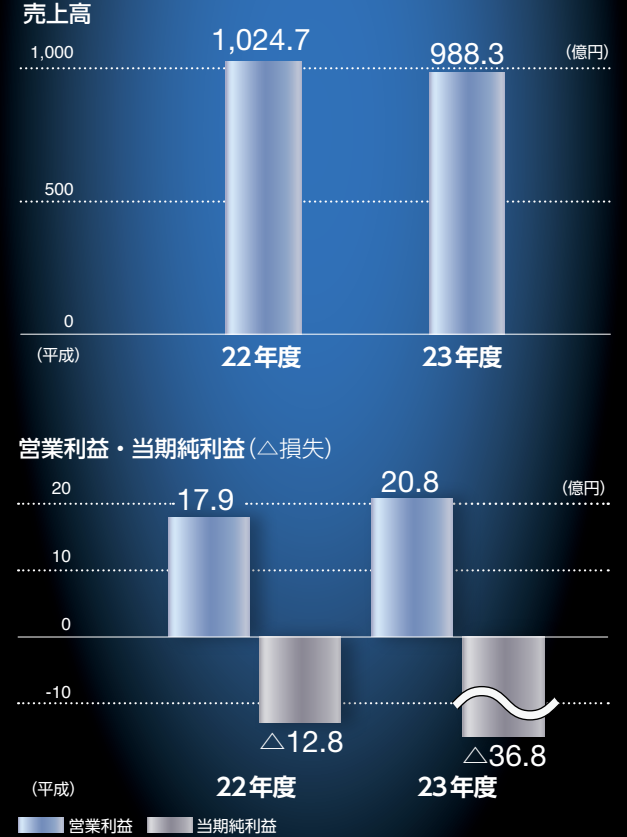
平成24年6月

株式会社トプコン

取締役社長 内田 憲男

取締役社長

財務ハイライト



当社は、昭和7年(1932年)に測量機、双眼鏡、カメラ等を製造する東京光学機械株式会社として設立され、今年9月に80周年を迎えることになりました。

証券コード 7732

事業セグメント別概況

ポジショニングビジネス

売上高
526億5千6百万円

営業利益
14億8千2百万円

世界をリードするGPS・トータルステーションなどの測量機器に加え、3Dスキャナーや車載型3Dモバイル・マッピングシステムへも注力。当期は、米国および日本が伸長。

アイケアビジネス

売上高
325億9千8百万円

営業利益
17億6千6百万円

眼底イメージング装置、網膜レーザ装置、システムソリューションなど、先端技術による商品力を強化、予防医学～治療分野まで事業領域拡大。当期は固定費削減により収益改善。

ファインテックビジネス

売上高
135億7千9百万円

営業利益(△損失)
△11億6千8百万円

半導体やフラットパネルディスプレイ(FPD)などの生産に欠かせない検査・計測機器に注力。当期は、半導体・FPD関連の市況低迷や事業縮小の影響を受けた。

※平成24年4月1日よりファインテックビジネスを廃止し、将来性が見込まれる事業を子会社に移管しました。

株主メモ

発行可能株式総数	160,000,000株
発行済株式総数	92,688,342株(平成24年3月31日現在)
株主優待制度	メガネセット(レンズ+フレーム)30%割引券(500株以上)(年2回) (愛眼株式会社の全国各店舗で使用可能)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区泉東二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

トピックス



～革新的なポジショニングソリューション～

トプコンは、創立より培ってきた光学技術をベースに電子技術やレーザー技術を加え、高精度に位置や距離を計測する最先端の測量機器などを開発してきました。「モバイルマッピングシステム IP-S2 Lite」は今の時代に求められるニーズに幅広く対応しながら、より高精度な3次元計測を可能にする次世代のポジショニングシステムです。

➤ ヴァーチャル商店街



現在、主に利用されている地図では、上空からしか自己の位置や周囲の風景を確認できず、歩行者の視点で目的地や目的地までのルートを確認することは困難です。

➤ 被災地図の作成



モバイルマッピングシステムのカメラで被災地の状況を撮影し取得した動画データと、平面の地図とを連動させることにより、航空写真では分からない対象物の高さや幅などが計測できる詳細な被災地図が作成できます。Google社のストリートビューのデータがある地域であれば、被災前の状況との詳細な比較も可能です。

この被災地図は、PC画面上で任意の場所を選ぶとその場所の状況を動画で閲覧することを可能にし、被災状況の把握に役立てられています。動画データは地図情報の背景にあるGIS*と連動しており、被災状

* GIS: Geographic Information System(地理情報システム) - デジタル化された地図データと、統計データや位置の持つ属性情報などの位置に関連したデータとを、統合的に扱う情報システム。

トプコンではホームページによる情報開示を積極的に行っております。財務情報をはじめとする投資家情報(IR)に加え、「トプコングループCSR報告書2012」などの社会・環境活動の情報も公開しております。http://www.topcon.co.jp/

そこでトプコンは、モバイルマッピングシステムで取得した360°動画と、平面の地図を連動させた新しいナビゲーションシステム(360VR)を開発しました。

このポジショニングシステムは、現在、東京都品川区の戸越銀座商店街のホームページ「ヴァーチャル商店街 360°ぐるり散策」で利用されており、360°動画を自由に動かしながらあたかもその場を歩いているような感覚で右側や左側を見たり、通り過ぎた店舗を振り返って確かめることができます。さらに、動画上に表示されるアイコンから店舗情報の確認も可能です。

また、ASTCトライアスロンアジア選手権のコースガイド(ランとバイク)としても利用され、ゴールまでの道のりを選手の視点から詳細にたどることを可能にしました。今後、このポジショニングシステムは、ゴルフ場のコースガイド、観光地マップなどの幅広い分野においても利用されることが期待されています。



況のデータベース化も容易に行え、被災状況を各レイヤーに分けて管理すれば時系列での変化の管理も可能です。

また、国土地理院では、地図上の任意の点を結んで津波の高さを測る計測機能を活用するなど、被害の分析を行っています。

